

IR とスポーツを融合した新たなエンターテインメント施設による地域活性化策
—大阪市がオリンピックの負の遺産を解消するための提言—

大阪経済大学 相原ゼミ B

○伊東香輝 岡澤南帆 柿本啓人 鈴木要 戸松龍一郎

1. 研究の背景

日本がスポーツで湧く年が来る。ラグビーワールドカップ 2019 や 2020 年東京オリンピック・パラリンピック、関西ワールドマスタースゲームズ 2021 という三大スポーツイベントがここ日本で開催されるからである。国内外から日本が注目され、さらに多くの方が日本を訪れる絶好の機会が到来するため、観光客受け入れ環境の充実とさらなる魅力向上、効果的なプロモーションを展開する必要がある。世界のツーリズム産業は、GDP の約 10% を占めている (UNWTO, 2016)。ツーリズム産業の拡充は経済の活性化、雇用の創出に貢献するとされており、社会経済を発展させる重要な産業へと発展した。日本でもツーリズム産業は急速に発展している産業の一つである。

私たちが住む関西・大阪では世界的な創造都市、国際エンターテインメント都市への発展を加速させるべく日本万国博覧会や統合型リゾート(IR)の誘致などの施策へ乗り出した。そこで目標となる 10 の目指すべき都市像と施策の方向性を固めた。スポーツに関連するものは、アジアをリードする国際・プロスポーツ都市と健康と生きがいを創出するスポーツに親しめる都市の 2 つが挙げられる。

私たちが住む大阪ではこれらの施策が推進されている。しかし、スポーツで盛り上がっている人がいる反面、全く興味も親しみも感じない人たちがいるのも事実である。そのような人たちを巻き込むにはどうすればよいのだろうか。そこで、私たちは大阪が誘致を進めている IR に着目した。

2. 研究の目的・方法

統合型リゾート(IR)は世界各所で大きな経済波及効果をもたらしている。単なるカジノ施設ということだけでなく、ホテル、レストラン、ショッピングモール、エンターテインメント施設、収益性が低い MICE (Meeting: 会議、Incentive travel: 研修旅行、Convention: 国際会議、Exhibition: 展示会) 施設の整備も安定的に運営することが可能となっている。2020 年に向けて様々な戦略を立てている大阪。だからこそ統合型リゾート(IR)とスポーツを切り離すのではなく、同時に盛り上げていくことはできないだろうか。

- ① 統合型リゾートの施設の中にスポーツに興味関心のない大学生も含め、多くの方が親しめるスポーツ施設の新設

② 今まで大阪にあまり親しみがなかった新たなスポーツの導入

私たちは上記 2 点に注目し、IR を活用して大阪の街をスポーツで盛り上げるための提案を行う。

(1)研究方法

ア. 文献調査

イ. 定性調査(2018年7月24日) 半構造化によるインタビュー形式

調査対象：大阪市IR推進局ご担当者

調査内容：大阪市統合型（IR）事業の取り組み、課題、可能性など

ウ.定量調査(2018年10月2日) スポーツ産業論受講生に対するアンケート調査

IR とエンターテインメントを組み合わせることで経済効果を上げるため、どのようなスポーツとの組み合わせが適しているのかを大学生 122 名に対してニーズを調査した。

ア、イ、ウによる調査結果を基に、SWOT 分析を行い提言としてまとめていく。

3. 結果

ア. 文献調査の結果

統合型リゾート（IR）は世界各国で大きな経済効果を発揮し、たくさんの観光客の誘致に成功している。例えば、シンガポールでは IR 開業後 4 年で、国全体の観光客数が 6 割、観光収入が 9 割増加した。また、日本での IR 建設において最も有力な候補である大阪ではインバウンド数が 2009 年から 2016 年までに 4.5 倍に増加し、世界一のインバウンド成長率を誇っている。IR の建設によってインバウンド数はさらに増加するはずである。F1 などのモータースポーツ競技やアリーナにおいて格闘技などのスポーツを実施する IR 施設が多い。

1 万人～2 万人前後の収容人数を誇るアリーナが、関西には大阪城ホール（16000 人）、神戸ワールド記念ホール（9964 人）の 2 つしか存在しない。従来は有名アーティストや海外アーティストなどが関西で講演をする場合において、大規模な場所を確保することができない。また、アリーナにおいて格闘技のタイトルマッチ、室内競技、フェス、e スポーツなどのイベントを他の日に行うことが可能になる。夜間に楽しめるアクティビティとしてナイトエンターテインメントも提供できる。様々な用途に用いられることにより、いつでも使用可能となるため経済効果も期待できる。

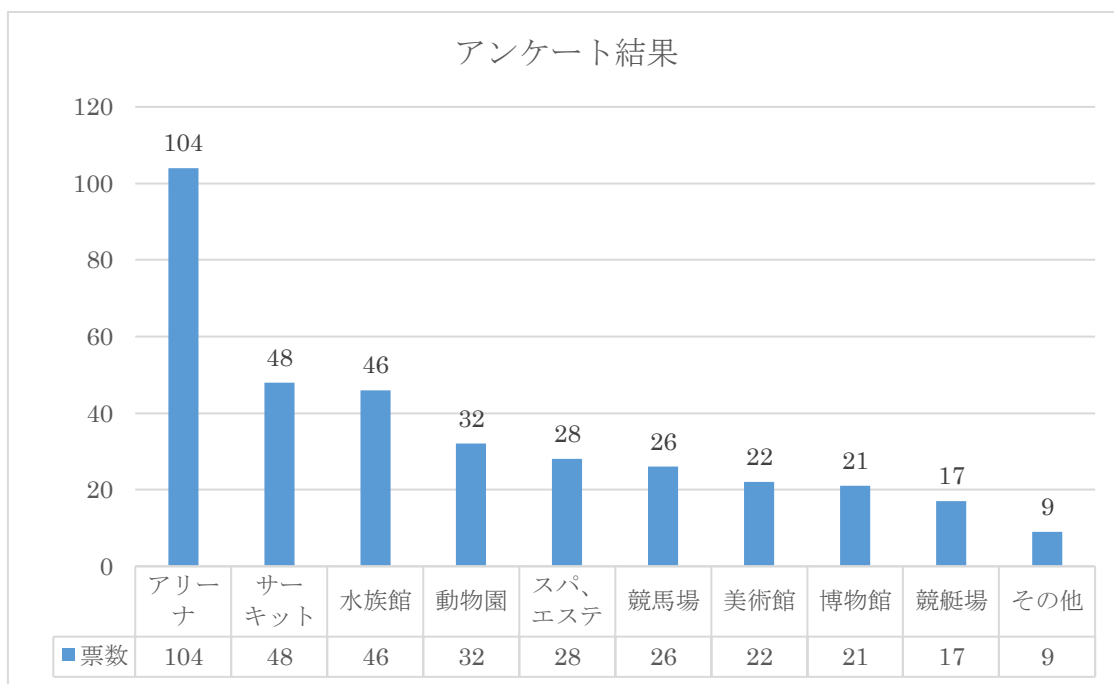
イ. 定性調査の結果

大阪市 IR 推進局の定性調査の結果、夢洲は適していると考えられる。夢洲は大阪オリンピックの負の遺産（2008 年北京大会に敗北）と言われており、現在までまったく使用されていない状態である。170ha の広大な土地が利用できる利点がある。また、海に囲まれているため近隣に建物などもなく、人も住んでいないため、騒音などが問題にならないので、エンターテインメントを行う上でも都合が良い。臨海部の景色もよく、

過ごしやすい空間である。咲洲、舞洲、夢洲の3つを一括りとして観光都市とすれば、魅力ある滞在型観光が実現できるため、十分な経済効果は期待できる。

ウ. 定量調査の結果

大阪の大学生122人（男86人：女36人）に対して、大阪に求めるエンターテインメント施設について、アンケート調査を行った上で、なぜそれを選んだのかという理由を記入していただいた。大学生に行ったアンケート調査結果としては、大阪に求めるエンターテインメントとして、アリーナの建設やサーキットの建設が多かった。



4. まとめ・考察

Strength

- 大幅な経済効果がある。
- レジャーやエンターテインメントの施設が一体化しており、非日常空間を楽しめる。
- 施設全体の大部分がカジノの収益で賄えるため収益にかかわらずサービスを提供できる。
- MICE施設などもカジノの収益で賄えるため公的資金を必要としない。
- 外国人観光客のさらなる増加。
- 既存の周辺集客商業施設の活用や雇用の増加により関西全体の活性化。

Opportunity

- カジノ産業からの投資がアジアに押し寄せている。
- 大阪のインバウンドの数が増加傾向にある。
- 格安空港により、アクセスが便利。
- オリンピックやラグビーW杯で来日者の増加が見込める。
- 巨大な観光需要が見込める中国に近い。
- 富裕層の増加。

Weakness

- ギャンブル依存症への懸念。
- 国内での賛否両論。
- 民間事業者がカジノの経営を行うリスク。
- カジノ以外の賭博や犯罪の増加。
- 反社会的勢力の介入。
- マネーロンダリングの増加。
- 青少年への健全育成の妨げ。
- 外国人の来日増加による治安への影響。

Threat

- シンガポールやマカオ、ラスベガスのIR。
- 中国など周辺各国の経済成長。
- 日本政府の新事業の停滞。

以上のSWOT分析を含めた調査結果より、IR(統合型リゾート)というエンターテインメントや大阪のインバウンド数、臨海部、インフラの整備など人が集まるにはとて

もよい環境条件であることが分かった。IRの建設によってインバウンド数はさらに増加するはずである。それを利用し、スポーツ施設の建設をして大阪から関西全体を盛り上げていくことができるはずだ。また、今回提案したスポーツ施設はスポーツだけの利用にとどまらず様々なものに使用されることが考えられる。そのため、施設使用料などの収入をコンスタントに得ることができ、経営面での黒字化を図ることができると考えられる。また、大阪の学生へのアンケート調査によるとサーキットやアリーナを建設してほしいという声が多かった。

① アリーナの建設

アリーナを建設することによって、エンターテインメント以外にも室内競技はもちろんのこと、eスポーツが行える。サーキットを建設すればカーレースが行える。IRとうまく組み合わせることによって、相乗効果が図れる。カジノだけでなく、海外でも人気のあるカーレースやeスポーツを組み合わせることによって、世界から注目されるようなIRになると言えるだろう。これらの結果より、クリーンなカジノを含んだ、魅力ある「日本型IR」が完成するだろう。

② サーキット場の建設

海外で人気のあるモータースポーツの大会を日本で開催することができる。騒音被害や危険性などを考えると臨海部である夢洲にサーキット場を建設するには好条件の環境が揃っている。また、サーキットが行われなときには一般道として使用することもできる。スペインのバレンシア・ストリート・サーキットはその一例である。

5. 提言

このような調査結果と考察を踏まえ、関西全体を盛り上げるために私たちはIRにモータースポーツの大会を行えるサーキット場の建設、格闘技のタイトルマッチ、室内競技、フェス、eスポーツ、コンサートなど様々な用途として使用することができるアリーナの建設をするべきであると提言する。

<参考文献>

大阪府・大阪市IR推進局（2017）「大阪IR基本構想（案）・中間骨子」

大阪府・大阪市IR推進局（2018）「なぜ、大阪がIR誘致をめざすのか」

大阪府・大阪市（2016）「大阪都市魅力創造戦略2020」～世界的な創造都市、国際エンターテインメント都市へ加速～

夢洲まちづくり構想検討会（2017）「夢洲まちづくり構想」～新たな国際観光拠点の形成に向けて～

UNWTO. (2016) <http://www2.unwto.org/content/why-tourism>. 2018年10月4日閲覧。